

台湾をアジア圏物流のハブと位置付ける山九

山九昭安国際物流股份有限公司は、日本の総合物流会社である山九株式会社の子会社として2015年5月に設立された。台湾繊維商社の昭安国際股份有限公司との合併会社であり、昭安国際の物流事業を引き継ぐ形で主に倉庫事業を展開しているが、今後はフォーワーディング事業、構内物流、機工事業へとサービスメニューを拡大する予定である。近年台湾は、日本・中国・東南アジアとの貿易量が拡大しており、同社は台湾を中華圏事業のハブとして重要な拠点とみている。今回は、山九昭安国際物流股份有限公司の日下総経理を訪ね、台湾進出の経緯や現在の事業内容、そして今後の事業展開についてお話を伺った。



山九昭安国際物流股份有限公司 日下博総経理

— 貴社の事業概要について

山九株式会社（以下、当社）は、プラントエンジニアリング（機工）事業、ロジスティクスソリューション（物流）事業、オペレーションサポート（工場構内サービス）事業を有機的に結びつけた、世界で類を見ないビジネスモデル「山九ユニーク」を構築しています。プラントの企画段階から、設計・建設・重量物輸送・据付・試運転までのトータルなサポートが可能で、さらに、お客様の操業支援と設備のメンテナンス、調達・生産・販売までの各種物流にいたるまで、すべてをお任せいただける体制を整えているのが、当社の特徴であり強みです。

— 台湾進出の経緯について

当社の台湾進出は、今回が初めてではありません。1992年にマイナー出資の形で台湾に合併会社を設立し、同時に別途駐在員事務所を設立しました。その後、2006年に一度撤退しましたが、近い将来台湾事業を成功させたいという強い意志があり、再進出の機会をつかむために駐在員事務所を閉鎖せずに台湾市場の調査を続けていました。

その後、当社の海外事業が東アジアや東南アジア事業を中心に拡大すると共に、アジア事業全体のハブ機能を持つ必要性が高まり、台湾が再び注目されました。台湾に再進出した理由は主に3つあります。1つ目は台湾の地理的優位性です。ご存じの通り、台湾は東アジアと東南アジアの中心に位置しており、アジア全体の物流中継拠点として大変優れています。特に台湾から中国事業展開をする企業や

中国に既に進出している企業が大変多く、中華圏ビジネス拡大に向けて、台湾は非常に重要な役割を持ちます。2つ目は、「アジアの山九」というブランドの確立です。当社は、東アジア及び東南アジアに数多く拠点を設けており、既に多くのお客さまに当社のサービスをご利用いただいています。台湾拠点の設立は当社のアジアにおける更なるサービスの向上につながるものだと考えています。3つ目は国際3PL事業の拡大です。近年顧客の物流改革プロジェクトは、日本国内外を問わず国際入札になるケースが多く、そのうち台湾に拠点を持つことが入札参加条件になるケースも数多くあります。既存のお客様の海外事業拡大をサポートするためにも、東アジアで重要な役割を持つ台湾に拠点を持つことは自然な流れでした。

— 台湾拠点の事業内容について

台湾事業開始に当たり、進出形態についても様々な検討を行いました。台湾物流市場は一定の成熟度に達しており、当社独資で顧客を一から獲得することは、事業拡大のスピード面からみても現実的ではないと判断しました。そこで、台湾内でパートナーを探し、昭安国際をご紹介いただきました。昭安国際は、繊維の卸売り事業と物流・倉庫事業からなり、その内の物流・倉庫事業を分社化し70%の株式を当社が引き受ける形で合併会社、山九昭安国際を設立しました。当社は、海外に40の現地法人を有していますが、他社の既存事業に出資をする形での海外拠点設立は台湾が初めてです。

日本企業から見た台湾

山九昭安國際は、今年の5月から正式に事業を開始しており、現在は主に昭安國際の既存事業であった倉庫事業を行っております。取り扱い製品は、ワイン、ウイスキーなどの高級嗜好品、医療関連製品・コスメ製品などを含む化学製品、その他日用品や家電製品等です。当社の台北桃園物流センターは、6階建てで敷地面積は3万4,000平方メートル、倉庫面積は8万平方メートルで、倉庫事業者として台湾有数の規模を誇ります。また、保税ライセンスも取得済みであり、保税貨物及び非保税貨物を同時に管理できる体制です。

その他にも、現在フォワーダーライセンスを申請しており、取得完了次第企業の物流を一括で請け負うサードパーティロジスティクス(3PL)事業を開始する予定です。

台湾進出にあたり苦労した点について

台湾進出にあたり、台湾だから苦労したということは特にありません。現在は合弁会社を設立する際に一般的にどの企業も向き合う課題を一つ一つ解決していくことに注力しています。台湾では、その点についても、他の海外拠点に比べてスムーズだと考えています。当社は、山九70%、昭安國際30%の合弁会社ですが、元は昭安國際の物流部門を分社化し、そこに山九が70%出資する形で設立されています。つまり、山九昭安國際の現場社員はほぼすべて昭安國際出身です。そのような体制の中、当社は山九ならではの企業文化や仕事のやり方などを、相互尊重しあいながら浸透させていこうと努力しています。

従業員教育については、当社の海外拠点運営のノウハウを台湾でも活用しています。たとえば、当社の中国物流拠点を視察し事業改善につながる点を台湾拠点に反映させています。一般的に台湾の物流センターは、優れた設備を導入していることが多く、その点については日本にも引けを取りません。山九昭安國際の台北桃園物流センターは、高付加価値製品の取り扱いが多いため、自動ラックなどの最新設備を導入しています。しかし、当社の強みはそういった最新設備を導入することだけではなく、山九マインドと呼ばれる長年現場で培った設備だけに頼らない業務改善能力にあります。このような当社の企業文化を台湾拠点の経営層や現場スタッフと共有することで、ソフトとハードの強みを

両立した拠点に育てていきたいと考えています。

今後の事業展開について

最終的な目標は、台湾拠点を東アジア、日本、東南アジアを繋ぐ物流ハブとして欠かせない拠点に育てることです。そのために、短期的には現在の主要事業である倉庫事業から3PL事業へと総合物流会社としての機能拡充を進めていきます。そして、台北、台中、台南、高雄など台湾の主要都市を繋ぐ物流ネットワークを構築していきたいと考えています。また、顧客対象についても現在の台湾地場企業や欧米企業の台湾拠点だけでなく、日本企業に対してもサービスを提供していきたいと考えています。長期的には台湾でも日本や他拠点で実施している、ロジスティクスソリューション事業、プラントエンジニアリング事業、オペレーションサポート事業の3つのサービスを有機的につなぐ独自のビジネスモデル「山九のユニーク」を打ち出し、中華圏の発展を物流面からサポートしていきたいと考えています。

ありがとうございました

山九昭安國際物流(股)有限公司の基本データ

会社名	山九昭安國際物流股份有限公司
董事長	奥田雅彦
設立	2015年5月
資本金	2億NTD
従業員	約90名(内、日本人2名)
事業内容	倉庫事業、フォワーディング事業*、 構内物流事業*、機工事業* (*今後事業拡大予定)

注)2015年9月時点のデータによる
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理